

将来ビジョン及び必要な取組・事業

提案主体名	株式会社 橋本	※複数主体の連名の場合は「、」で区切って記入してください。				
提案プロジェクト名	将来世代につなぐ環境生活都市・可児市	※同一主体で複数の提案をする際は別名称としてください。				
対象地域	都道府県名 岐阜県 市町村名 可児市、美濃加茂市、坂祝町、富加町、八百津町、東白川村、白川町、川辺町、七宗町、御嵩町	※複数の都道府県にわたる場合は「、」で区切って記入してください。				
① 関連する分野	環境（低炭素） 超高齢化（健康・介護） その他（ ）	※国際連携・国際化に関する事項は、分野ではないため、「その他」欄に記載しないでください。				
② 将来ビジョン（環境価値、社会的価値、経済的価値の創造に関する総合的な目標（2050年を見据えた上での2020年、2030年の姿））	※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。					
<p>持続可能な社会の構築するには、これまでのような大量生産、大量消費、大量廃棄の社会システムから、生産活動や消費活動が環境容量や資源量の範囲内で生活する時代が訪れなければなりません。環境容量や資源量の範囲内で営まれる社会システムは、グローバルな調達に依存することなく、ローカルな調達を重視したシステム化が図られることとなり、人の生存基盤である食料やエネルギーの確保もローカルで調達することが重視されてきます。可児市は名古屋市を中心としたベットタウンとして人口が増加した地域であり、ここでの有用なエネルギー資源は、“廃棄物”です。今まで、単純焼却を行っていた廃棄物をエネルギーとして取り出すことにより、地域においてコミュニティーを獲得し、それを全国に点在させることを目標とします。本提案での環境価値は、化石燃料から再生燃料への転換を図ることで、低炭素、循環型社会を構築します。社会的価値としては、エネルギーを温室栽培施設や介護施設に提供することにより、障害者と高齢者の雇用の場を確保するとともに、高齢者が安心して生活できる場所を提供します。経済的価値については、温室栽培施設で栽培された野菜を、給食センター・大手スーパーへ定量供給することにより、安定的な雇用と所得の確保を行います。ペネフィットにより、「誰もが暮らしたい町」、「誰もが活力のある町」を実現します。2020年には廃棄物からエネルギーを取り出す施設が建設され、2030年には、エネルギーを利用した温室栽培施設と介護施設の建設、2050年には、廃棄物の受入量を日量300トンまで、増やし、バイオフェーセル車の促進と、エネルギーを供給による燃料電池発電、給湯システムにも挑戦します。</p>						
③ 将来ビジョン（②に記載した目標達成の実現のための取組の基本的な考え方）	※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。					
<p>廃棄物は大きくバイオマス系(生ごみ、紙ごみ、剪定枝)と非バイオマス系(プラスチック類)の2つのカテゴリーに分類することで資源化することが可能です。本提案では、排出段階でバイオマス系廃棄物と非バイオマス系廃棄物を分別し、それぞれを分別収集することでシステムのライフサイクルコストの低減を図り、収集したバイオマス資源は、乾式メタン方式によりメタンガスを生成し、発電、都市ガス導管注入、自動車燃料、温室栽培施設や介護施設の熱源として利用します。非バイオマス資源は、炭化施設にて乾留ガスと炭にします。乾留ガスをバイオマス残さの乾燥に利用し、炭は燃料代替として販売します。将来的には廃棄物の受入量を日量300トンまで、増やし、バイオフェーセル車を用いた、燃料費込みのリース会社の完成を目指しグリーン・サービサイジングを行います。このシステムは当社で精製されたバイオガススタンドで給ガスすれば燃料費は無料という付加価値と環境車の導入を促進をするものです。その他、近隣の住宅や工場へガス管によりバイオガスを供給して、燃料電池によるガス発電、給湯システムを構築します。目標達成の基本的な考え方は、大きく3つのファクターがあります。1つ目は民間業者である当社が廃棄物処理施設(エネルギー転換施設)を建設すること、2つ目は市町村が経済的効果や処理確実性を調査・担保して市民や関係市町村へ説明すること、3つ目は市民の理解です。</p>						
④ 将来ビジョンの実現のために5年以内に必要となる具体的な取組・事業(技術・システム、サービス、仕組み等)						
番号	取組・事業の名称	取組・事業の概要	取組・事業の期間	実施主体・運営主体	価値、分野の種類	国の支援の必要性
	※異なる名称を付けてください。	※500文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。		※複数主体の連名の場合は「、」で区切って記入するとともに、それぞれの役割を()内に記入してください。		※必要性がある場合、「○」を記入してください。
(1)	建設敷地の確定・処理施設の設計	建設敷地の必要面積S=16,500㎡ ガスを貯蔵するため工業専用地域がベストです。	H23. 4～H23. 11	株式会社 橋本	環境価値(低炭素)	
(2)	環境影響調査	岐阜県内にある財団法人公衆衛生検査センターへ事前相談しました。	H24. 2～H25. 3	株式会社 橋本	環境価値(低炭素)	
(3)	市職員PTで検討	廃棄物処理システムと廃棄物処理の現状(処理経費を含む)と課題の調査と担保。	H23. 4～H24. 4	可児市	環境価値(低炭素)	○
(4)	市民検討委員会	システムの仕組みとガスの利用方法、市民へのメリット、デメリットなど。	H24. 2～H25. 3	可児市	環境価値(低炭素)	○
(5)	近隣・地元住民説明会	隣接者と関係自治会への説明会。	H24. 8～H26. 6	株式会社 橋本	環境価値(低炭素)	○
(6)	市分別説明会	ごみ収集体系の変更。	H27. 4～H28. 3	関係構成市町村	環境価値(低炭素)	
(7)	処理施設建設	施設設置許可後、造成工事と施設建設。	H26. 8～H28. 2	株式会社 橋本	環境価値(低炭素)	
(8)						
(9)						
(10)						
(11)						
⑤ ④に記載した技術・システム等をインテグレートして実現するイノベーションの内容			※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。			
<p>低炭素社会、超高齢化対策、システム稼働後の補助金依存から脱却したモデルの確立を実現するためには、3つのファクターがお互いに協力することが大切です。1つ目のファクターは民間業者で廃棄物処理施設、温室栽培施設、介護施設の建設、さらに温室栽培施設の農産物を流通させるための大手スーパーや給食センター、燃料炭を使用してくれる製紙工場の参加が必要で一部の事業者と連携の打診がなされております。2つ目のファクターが市民自らが進めていく「次世代につなぐ環境生活都市」の姿を明確に理解し、施設の建設に伴う種々の環境側面の変化を受けいれてもらう必要があります。特に、搬入、搬出に係る交通量の増加、排ガスや騒音など公害対策、バイオガスの安全性など、市民の理解を得るために国の支援を希望します。3つ目のファクターは、可児市(関係構成市町村を含む)です。一般廃棄物処理施設の許可権限は可児市にあります。が広域の市町村事務組合でごみ処理を行っているため、関係市町村の一般廃棄物処理基本計画の改定などごみ処理の基本的な事項の変更が必要になります。分別の方法の変更など住民説明責任も非常に大きなハードルです。このように最初の5年間は、あらゆるファクターに計画の有効性、安定性に関する理解を得るかが非常に重要だと考えています。現段階では、市民、事業者、行政など様々な主体による協議会、検討委員会において説明していくことを考えています。協議会や委員会への参画など国の支援を希望します。</p>						